穴掘り人

とりかわつくね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
穴掘り人

【Ｎコード】
Ｎ７５２０Ｖ

【作者名】
とりかわつくね

【あらすじ】
穴を掘るのが好きな青年。いつも穴掘りばかりをしています。
そんな青年が珍しいのか、彼の周りには沢山の人が集まりますが・・・

その青年は、穴を掘ることが好きでした。
雨が降ろうと、雪が降ろうと、彼はおかまいなしです。
誰かが訊きました。
「なぜそんなに夢中になって穴を掘るんだ？」
彼はにっこり笑って答えました。
「地面に宝が眠っているかもしれないからさ」
でも、宝が見つかったことはありません。動物の骨やら、水道管やら、不発弾やら。どれもこれも、一銭にもなりません。でも、彼は掘ることをやめません。
彼の穴の周りには、沢山の人が集まります。みんなは底を覗き込み、彼に声をかけます。
「深いね！」
「すごいね！」
「頑張って！」
様々な声が混ざり合い、ひとつの音となって彼の頭上に降り注ぎます。彼はその声ににっこり笑って答えます。
「ありがとう！」
毎日毎日、沢山の人がやってきます。その数はどんどん増えていきます。テレビの取材が来たこともありました。

誰かが昔、訊きました。
「同じことの繰り返し・・・飽きないの？　楽しいの？」
彼はにっこり笑って答えました。
「飽きないし、楽しいよ」
彼は、飽きません。
飽きたのは、観客の方でした。
底から空を見上げても、真ん丸の青が見えるだけで、切り取られ

た黒い人のシルエットはひとつも見当たりません。　彼の頭に降り注ぐ音は、日に日に小さくなっていき、やがて静かになりました。動きを止めると、

とんびの鳴き声
風のうなり声
木々のざわめき

そんなものしか聞こえません。彼はつぶやきました。
「人がいなくなったということは、邪魔されることなく、思いっきり穴が掘れるということだ」
まるで、自分に言い聞かせるように。
その小さな音は、青い空に向かって飛んでいき、やがて消えました。

ざくり　ざくり
「これで、よかったんだ」
ざくり　ざくり
「せいせいした」
ざくり　ざくり
「どうせなら、世界一深い穴を掘ってやろう」
ざくり　ざくり
「そうだ、それがいい」
彼はスコップを土に刺し、空を見上げました。
「お宝も見つけて、お金持ちになってやるんだ！」
彼は両手を広げ、くるりくるりと踊ります。
「穴堀りで世界一になれば、僕は有名人だ！」
スコップの先で、土に絵を描きます。
「こんな風な大きな家に住んで、みんなを呼んで、パーティーをして、それからそれから・・・」

彼は言葉を切りました。カラスの鳴き声と、はちみつ色に染まった光が彼にふりそそぎます。

「みんなって、誰だ？」

「僕は、ひとりぼっちじゃないか」

土の壁に足をかけました。でも、そこからぼろぼろと崩れていきます。

「おーい」

「ここから出してくれ」

返事はありません。

彼はその場に座り込みました。やっと気がつきました。

お金持ちになっても。パーティーを開いても。

穴堀りで世界一になっても。

ひとりぼっちじゃ、寂しいんだということ。

丸い空の中心で、白く大きな満月が微笑んでいます。

彼も、満月に向かってにっこりと笑いました。

「ぼくは、ずーっと墓穴を掘っていたのか」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7520v/

穴掘り人

2011年11月13日14時26分発行